



'63 PONTIAC TEMPEST
LE MANS SS/A DRAG RACER "THE FARMER"(HIGHWAY 61 1:18)

細部のメカニズムまでキッチリ再現。

GTOの前身となるテンペスト・ルマンのドラッグレーサー。この48年型テンペストの構造は、4輪独立式のサスペンションとトランスアクスルの採用で、この時代のアメリカ車としては画期的なメカニズムとして評判にもなった。この1/18スケールモデルでも、そのあたりのディテールがしっかりと再現されている。



'70 OLDSMOBILE CUTLASS 4-4-2 W30 CONVERTIBLE(LANE 1:18)

コンバーチブルというところもキモです。

日本ではいせつと馴染みの無い車があるが、米国ではローレー・シェベルSSやビュイックGS、ポンテックGTOなどと並んで高く評価されている著名な大人気モデルカー。この1/18スケールモデルも、ハイパフォーマンス級の455ccV8(W30)を搭載するコンバーチブルモデルとなれば、241ccが搭載されたというウララア1台のみである。



'66 HURST "HAIRY OLDS"(HIGHWAY 61 1:18)

4輪駆動です。エンジン2基搭載してますけど。

前出のH&Mアンダー・グラスと同様のカラーリングで目を惹くこの車種は、ハーストが製作したアトラクション・ドラッグマシン、カラス44-2Vをベースに、その前後にV8エンジンを搭載しているのだが、このアイデアは両車に4ピュレしたFWDのトロンキドから保護されたものである。つまり、トロンキドの425ccV8を2基搭載し、それぞれが前後軸と後軸をそれぞれに駆動させるシステムである。ちなみにこのマシンが搭載する425ccエンジンはストックの過半数ではなく、スプリットポンプのロッド&ピストン、イネーのカムなどを組み込んでパワーアップを最上級にスーパーチャージャーまで搭載されていた。残念ながら車体はそのパフォーマンスを真実に目にしたことはないのだが、4輪からモークを上げてストリップを駆け抜ける写真が残されている。

'68 FORD MUSTANG "COBRA JET"
(SUPER CAR COLLECTIBLES 1:18)



ドラッグレースが産んだ、名機428CJ。

66年シーズン、マスタング・ファストバックでNHRAワークス参戦することを決めたフォードは、スーパーストックとして428コブラジェット(4CJ)を開発したモデルを発表した。一般的に、68年型マスタングの市販モデルでは390CVTが標準パッケージであり、428CJは1968年型マスタングのオプションと販売されていたが、実はドラッグレースが生み出した名機のひとつでもある。写真のモデルは当時、ドーナツホイールが採用されたマシンで、車体は改良でも存在。車体は68年型のマスタング428CJアンビリーバブルイベントで、ナマのサウンドを体験している。



'69 PONTIAC GTO
THE JUDGE FACTORY DRAG RACER(ERTL 1:18)

ポンテックのファクトリー・ドラッグレーサー。

68年型でポンテックはGTOにさらなるハイパフォーマンスバージョン、「ザ・ジャッジ」を設定。時代に合わせたサイクリックなロゴマークをデザインし、オプションエンジンには最高出力370hpを誇る4400ccのラム・エアV8を3ストロークV8でラインアップしていた。写真のモデルは、ザ・ジャッジの真実をアピールする目的でEJ14されたファクトリードラッグマシンである。



'66 PONTIAC GTO "Go to TIGER"(CLASSIC METAL WORKS 1:24)

搭載エンジンはご想像にお任せします。

ロイヤル・ポンテックがプロデュースし、ハーストの協力を得て1964年のみ製作した68年型GTOのエキジビション・ドラッグレーサーのうち1台。すでにこの時代、NHRAはホセロケーション制度を導入しており、正式には承認された401-トライワイ・搭載車である「ロイヤル・ネブキャット」GTOではスーパーストッククラスに出場出来なかった。だが、エキジビションながらもこの「Go to TIGER」は、ナンジャムイベントでは69秒というETを記録。このタイムは当時のSSよりも速かったが、ロイヤル・ポンテックが425ccV8搭載の車体を開発できなかったこと、競合からは「モスビー・GTO」とも呼ばれていた。



FORD MOTOR COMPANY

'64 FORD FAIRLANE THUNDERBOLT(ERTL 1:18)

フォードのスーパーストックとして語り継がれる1台!!

フォードが64年シーズンのNHRAドラッグレースに参戦すべく製造したスーパーストック・モデルがこのサンダーボルト。軽量化されたフェアレーンの2ドア・ボディには、最高出力429hpの427ccV8が搭載され、実際のレース出場時にはそのパワーは500hpまでアップされていたと伝えられる。ヘッドライトのハイビームをくり抜いてセットされた独自のゴールド・エア・パッケージが大きな特徴だった。

